

# 令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
  - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 ( **保健体育** ) 教科担任名

★教科・観点について  
 学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。〈○成果 ▲課題〉

観点	1学期		2学期		3学期	
	学年	課題分析	具体的な改善策	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
運動や健康・安全への関心・意欲・態度	1年	○生涯にわたって運動に親しむ態度を身に付けようとしている。 ○健康の保持増進を目指している。 ○体力の向上を目指している。 ○明るく豊かな生活を営む態度が身に付いている。  ○休校期間により、体力が落ち、運動するのがめんどくさいと感じている生徒もいた。タオルストレッチや手洗いダンスなど、簡単でおかつ取り組みやすいものを実施し、運動の楽しさを感じてもらうことができた。 ▲実技は積極的に行うが、準備や片付け、移動などの行動が遅く、だらだらとしてしまうことがある。	9月の暑さや12月の寒さの中でも、最善を尽くす態度が身に付けられるよう、1単位時間のテンポを考慮した学習計画を立てる。 健康や安全配慮を継続できるように、手洗い指導や用具の管理指導を継続する。  集団行動(整列や行動の速さ)を再確認し、だらだらと動くのではなく、メリハリをもって行動できるようにする。 指示を的確に、簡潔に伝えられるようにする。			
	2年	○素直で真面目な生徒が多く、友人との学び合いや課題に対して積極的に取り組もうとする姿勢が見られる。▲苦手なことに対して少し消極的になる場面もある。  ○ハードル走についてグループ学習を取り入れた。運動技能が低い生徒たちも、技能が高い生徒と取り組むことで即時的アドバイスがもらえるので意欲的に活動することができていた。▲得意なこと、好きな活動には積極的に取り組むが、苦手とするものに対して粘り強く取り組み達成感を感じるような場面が少ない。	・学び合いができるようなグループを編成し、積極的に取り組めるようにする。 ・全体の達成目標の他に個人に合わせた達成目標を決め、小さな達成感を味わえるようにしたい。  ①グループ学習を取り入れる際に、グループ作りにはより一層配慮をする。リーダーシップをとれる生徒や生徒同士の間関係まで気を配る。 ②個人的な目標を記入する欄を学習カードに設ける。個人の目標に向かってスモールステップで学習させることにより達成感を得るように指導していく。 ③保健学習では最新の知見を取り入れる。			
	3年	○運動に対して積極的に取り組む生徒が多く、チャイム前に整列を完了することができる。 ▲指示に対しては前向きに行動することができるが、自主的に行動することが少ない。  ○どの単元についても意欲的に取り組む生徒たちはばかりである。ソーシャルディスタンス等の感染症対策をしながらも、できる限り運動量を確保した授業を展開することで意欲を喚起することができたと感じている。▲知的に運動を学習していくという態度(学習カードへの積極的取り組みなど)はまだ課題がある。	・体育委員・係を中心に生徒同士の協力をさらに進められるように指導する。 ・授業の見通しがもてるように、1時間の流れをホワイトボード等に示し、自分たちで考えられるような環境を整える。  ①グループ学習を取り入れる際の配慮。苦手な生徒、意欲の低い生徒がコミュニケーションをとりやすいような生徒を同じグループに入れるなど配慮する。 ②体育分野と、その他の学習内容(保健分野やその他の教科の学習内容)を関連付けて意欲をもてるようにする。 ③保健学習では最新の知見を取り入れる。			
運動や健康	1年	○運動や健康についての自他の課題を発見している。 ▲合理的な解決に向けて思考し判断している。 ○他者に伝えている。  ○学習プリントを活用し、できたことできなかったこと、どうしたらできるようになるかを記入させ、ただ運動を行うのではなく、振り返りをし、実技を向上させるにはどうしたらいいか考えることができてきた。 ○安全面については、単元の序盤に全体で確認し、授業を行うことができていた。 ▲コロナウイルスの影響も考え、あまり教え合い活動が活発にできなかった。自分の分析が正しいかどうか、わからない状態も起きている。	基本技能の向上のための練習時間を確保する。 練習の方法を提示して、技能向上に向けて必要な練習ができるようにする。  お互いの動きを見て対話的活動を取り入れる。その中でも、人との距離は適切にとるように指示し、自分の動きがどのようになっているのかどうしたらよくなるか考え合い、深め合う。			

# 令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
  - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 ( **保健体育** ) 教科担任名

★教科・観点について  
 学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。〈○成果 ▲課題〉

観点	1学期		2学期		3学期	
	学年	課題分析	具体的な改善策	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
健康・安全についての思考・判断	2年	○健康・安全に関する学習を自分の生活に生かそうとしている様子が窺える。 ▲練習や運動に対して、工夫や改善を図ろうとする力が不足しがちである。  ○体育実技で学習カードを積極的に活用し、生徒の思考を言語化して表現させることができた。 ○用具の管理や扱い方、安全面への配慮については、しっかりと考えて行動することができる生徒たちである。 ▲保健学習では、知識を伝えるばかりになってしまい、「実生活に活かす」という視点で生徒に思考させる場面が少なかった。	・自分の課題をはっきりさせる。 ・運動のポイントをおさえて学習に取り組めるように学習カードやグループ活動でのアドバイス方法を具体化させるなどの工夫をする。  ①課題、解決策、実施しての振り返りなど、体育実技を通してのPDCA学習サイクルを意識できるように指導していく。保健学習ではマインドマップなどの思考ツールも活用し、「生徒が学習すること・思考することが楽しい」と感じる授業を展開する。 ②自分の考えを表現する場を設定する。話し合い活動では、必ず全員が発言できるように指導する。			
	3年	○学習カードを用いて自分の課題を具体的に示すことができる生徒が多い。 ▲練習や運動に対して、工夫や改善を図ろうとする力が不足しがちである。  ○安全面については、単元の序盤に全体で確認して授業を行うことができています。 ▲運動について、様々な知識を関連させて思考させることができていない。保健の学習内容と体育実技の学習内容をリンクさせて指導していく。	・自分の課題をはっきりさせる。 ・運動のポイントをおさえて学習に取り組めるように学習カードやグループ活動でのアドバイス方法を具体化させるなどの工夫をする。  ①単元の初めに、安全面で気を付けることを具体的に考えさせる場面を設定する。教員が教えるのではなく、まず自分たちで考えさせ、足りない点を補足して教えるようにする。 ②意見や考えを積極的に表現できる生徒が多いので、生徒の意見を拾うような形式での授業を心がけ、双方向型の授業展開になるようにする。			
運動の技能	1年	▲基本的な技能を身に付けている。  ○バドミントンでは、やったことがない生徒が多かったので基礎的な技能を定着させることを目指した。 ○運動技能の高い生徒を模範としデモンストレーションをさせた。いい動きを見たことで、友達からの声掛けもイメージがわき、動作を直してよくなる姿が見られた。 ▲コロナウイルスの影響も考え、あまり教え合い活動が活発にできなかった。自分の分析が正しいかどうか、わからない状態も起きている。	運動の楽しさや喜びを継続して味わえるような領域内計画を立てる。 体の使い方(動き)に焦点をあて、できる・できないを自己評価できるようにする。 体力テストを実施し、関連付けて指導する。  基本的な技能だけでなく、発展的な内容を生徒の安全面等に留意しながら指導できるようにする。 デモンストレーションをもらった生徒には、他の生徒にアドバイスをする側に回ってもらう時間も作っていく。(対話的活動の活発化)その中でも、人との距離は適切にとるように指示し、できるだけなく、しっかりと理解したうえでできるという一上のできるを身に付けさせる。			
	2年	○能力の高い生徒が多くいる。▲その反面、運動に対して消極的な生徒、苦手な生徒もいる。能力に開きがある。  ○技能の高い生徒も多い。ハードル走ではほとんどの生徒はハードリングの正しい姿勢を身に付けることができた。特にバドミントンは昨年度も8時間程度実施したからか、技能が大きく向上した。▲意欲の低い生徒が技能が低いという傾向になってしまっている。	・技能の高い生徒が技能の未熟な生徒に対し、教える、学び合える授業を展開していく。  ①個人での運動の時間が長くなる単元においては、グループ学習をより一層活用し、技能の高い生徒が技能の低い生徒の先生役になるようにして、全体としての技能向上を目指す。 ②準備運動の時間を見直し、その単元の準備運動をしながら基礎的な技能向上も目指せる時間をとる。			

# 令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
  - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 ( **保健体育** ) 教科担任名

★教科・観点について  
 学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。〈○成果 ▲課題〉

観点	1学期		2学期		3学期	
	学年	課題分析	具体的な改善策	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
	3年	○能力の高い生徒もいれば苦手な生徒もいる。しかし、生徒同士で学び合いの場を整えれば、教え合い共に成長していく様子が窺える。苦手な生徒も教えてもらうことで小さなことでもできることがふえてくる。▲体を動かすことが好きな生徒が基本的には多いが、発展的な内容を習得するのが難しい。 ○運動に意欲的だからか、運動技能の高い生徒が多い。一部の生徒の能力が高いというわけではなく、全体的に技能が高いと感じる▲運動を楽しむことができているが、全体としての成長ということ意識しすぎている部分があるために、発展的な学習内容を展開することができていない。	・基礎的な技能を定着させることを目指す、その一方で、より発展的な内容を生徒の安全面等に留意しながら指導する。 ①基礎的な技能を定着させることを目指す、その一方で、より発展的な内容を生徒の安全面等に留意しながら指導する。 ②運動技能の高い生徒を模範として積極的にデモンストレーションをさせる。またそうした生徒には、他の生徒にアドバイスをする側に回ってもらう時間も作っていく。			
運動や健康・安全についての知識・理解	1年	▲各種の運動の特性に応じた技能等について理解できている。 ○個人生活における健康・安全について理解できている。 ○保健分野では、ICTを積極的に活用して実生活に役立たせられるような授業を心がけた。生徒の興味関心を引くことができ、活発に授業に参加する姿が多かった。 ▲体育分野に関しては、やることはできるが、器具の名前や練習の内容が定着していないようだった。	基本的な動きがけがの防止につながっていくことと関連付けて指導する。 練習はやり始めると、思い出すが言葉や文章で伝えるとわからないという事が起きていたので、1つ1つしっかり理解し、行動できるように、学習カードにイラストを入れたり、説明時にICTを活用したり工夫していく。			
	2年	○授業では種目のルールを積極的に覚えている様子が窺える。▲授業中は説明内容をその場で理解しているがテストにおける定着が悪い生徒もいる。 ○保健体育の学習については、重要な内容はしっかりと頭に入っている。また健康を保持増進するために、正しい行動をとるための知識が身につけている▲基礎的な知識は身につけているものの、なぜそうなるのか、なぜ正しいのかという理解にいたっていない生徒が多いように感じられる。	・振り返りの時間を確保する。 ・ICT機器を使用し、視覚から情報を取り入れられるような工夫をする。 ①保健分野・体育分野共に、ICTをより積極的に活用してわかりやすい授業を実践する。 ②保健分野で現在実践中だが、前回何を学んだかを簡単に振り返ってから授業を開始するようにして、学習につながりをもたせることで学習内容の理解を促す。			
	3年	○基本的な器具の名称や種目の基本的なルールについての知識は身に付いているように思える。▲各種目の専門的で複雑なルール(ベースボール型など)はあいまいに理解しているところがある。 ○保健分野においても、体育分野においても、重要な内容は知識を身に付けている。授業中にわからないことを積極的に質問する生徒が多いので、一つ一つ理解をして、知識を身につけながら授業を進めることができている。▲発展的な内容はあまり教えていないので、知識を多くもっている生徒にとっては物足りない内容となっている可能性がある。	・図で説明する場面を増やす。 ・ICT機器を使用し、視覚から情報を取り入れられるような工夫をする。 ①体育分野では、発展的な内容の指導まで視野に入れて単元指導計画を考える。 ②保健分野については、何でも教えるだけでなく、保健の学習内容を、本当に自分の生活に活かすような実学となるように、指導内容を精選していく。			
授業改善の検証方法	①研究授業:2学期は多くの研究授業の機会がある。様々な先生方からの意見を参考にして授業改善を検証する。 ②生徒への授業アンケート:定期テストの回答用紙裏面を活用してアンケートを実施し、その結果を検証する。 ③授業ノートの振り返り:自分自身で活用している授業ノートを長期休業期間に見直し、改善の結果を検証					

# 令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
  - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 ( **保健体育** ) 教科担任名

★教科・観点について

学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。〈○成果 ▲課題〉

観点	1学期			2学期			3学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
研修課題(キャリア教育に関連した教科としての取組)		研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1学期の成果と課題		1学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2学期までの成果と課題	1年間の成果と今後の課題
「学び合う力」、「自分を知る力」、「今を考える力」、「未来を考える力」というこたろくスキルを授業の初めに意識させた上で授業を開始する。		①グループ学習(アドバイスをし合う活動)や球技等での話し合い活動の実施 ②体育理論領域等で学習内容と職業の関連性についてふれる。 ③自分自身の課題(技能、態度、知識など様々な面について)と向き合う時間、またその課題の解決方法を考える時間をつくる。学習カードを活用する。	○学習カードを積極的に活用することで、自分自身の課題と向き合うこと、また課題の解決方法を考えさせる時間を確保することができた。 ○ハードル走の単元においてグループでの話し合い活動を取り入れることにより、学び合うこととお互いに向上していけるという体験を多くの生徒にさせることができた。 ▲体育理論領域を実践していない。 ▲保健分野でも学び合いを取り入れたが、一部分にしか至らなかった。		①学習カードは継続して活用していく。2、3年生では各単元で既習事項も多いので、単元の初めに自分の既習事項の確認と、これから自分はどんなことを努力したいかを書かせる活動を実施する。これが「自分を知る力」「今を考える力」の育てると考える。 ②学び合い活動においては各単元でより一層取り入れる。特に個人での運動において、技能ポイントの確認の場面で積極的に活用するようにしていきたい。 ③体育理論領域、保健分野でも「こたろくスキル」を意識する。		
「学びあう力」互いに協力している。自己の役割を果たしている。一人一人の違いを認めようとしている。 「自分を知る力」自己の最善を尽くして運動している。 「今を考える力」運動についての課題を発見している。合理的な解決に向けて思考し判断している。		「学びあう力」ペア・グループ活動の時間の確保 「自分を知る力」ペア・グループ活動の時間の確保 「今を考える力」ふりかえりの時間の確保	分散登校期間中の少人数による活動は、仲間の意見を受容しやすい雰囲気があった。できる限り少人数のグループを活動に入れる。期間が短く、生徒の能力を考慮し他グループ編成が難しかった。単元前や最初の診断的評価を積極的に導入し、効果的なグループ編成を柔軟にしていく。				
「学び合う力」、「自分を知る力」、「今を考える力」、「未来を考える力」というこたろくスキルを授業の初めに意識させた上で授業を開始する。		・グループ学習(対話的活動)の実施 ・体育理論領域等で学習内容とオリンピックパラリンピックについてふれる。 ・自分自身の課題(技能、態度、知識など様々な面について)と向き合う時間、またその課題の解決方法を考える時間を授業内でつくる。学習カードを活用する。	○学習カードの活用方法が定着し始め、自分自身の課題と向き合うことができた。 ▲課題の解決方法を考えさせることに関しては、一部の生徒しかできていなかった。 ▲授業内に学習カードの記入振り返りの時間をとれないこともあった。 ▲グループ活動をあまり取り入れられなかった。 ▲体育理論領域を実践していない。 ○保健分野でも学び合いを取り入れた。活発に活動することができ、学習を深められた。		・学習カードは継続して活用していく。新しく覚えるものが多いので、わかりやすい図を活用するなどメモをしやすような工夫をする。 ・学習カードを活用しながら、どこができなかったのか、どうしたらできるようになるかをグループ活動を通して教え合い活動を行う。器械運動では、特に意識し、今後の団体種目に活かせるようにする。		
		保健分野の学習や体づくり運動等を通して自分の生活習慣や運動習慣を振り返るワークシート等を使用する。	成果:運動や学習を通して生徒が自分の現状を知ることができ、体育分野では学習カードを使用することで、それぞれの課題を把握することができた。 課題:生徒同士が自主的に課題を解決できるような学び合いを積極的に行えるようにしたい。		・学び合い活動の場を多く設ける。 ・学習カードを使用した授業を継続して行っていく。		